

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

事務事業名		自殺予防対策事業		担当部署	健康福祉部 健康政策課	
総合計画体系				根拠法令 計画など	自殺対策基本法・自殺総合対策 大綱	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり		事業 期間	開始	平成 20 年度
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なんと			終期	未定
(小項目)		保健・医療				
施策	7	健康・医療対策の推進				
基本事業	1	健康増進計画「健康なると21」の推進				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市民					
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	心の健康を損ね、自殺に追い込まれる人を少なくするため、心の健康について意識啓発や、精神疾患に対する正しい知識の普及啓発を行う。					
事業計画	27年度に何を計画していたか	平成24年度から継続して取り組んでいる、「絵本」をテーマとしてのメンタルヘルス対策を継続して実施する。自殺予防だけの視点では無く、人権、子育て・親育ての視点も併せて、関係各課と連携をしての事業推進を行っていく。 平成27年度には、新たに大人(特に高齢世代)にも「絵本」の活用をしたメンタルヘルス対策を進めていきたいと考えている。					
成果目標	事業目標の達成度合	指標名					単位
		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人
		講演会等参加者数	430	200	200	200	200

◎実施結果(DO)

事業実施内容	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	平成26年度と同様に、人権推進課、子どもいきいき課、長寿介護課と協働で事業を実施した。 平成24年度から継続している「絵本」をテーマにし、自死遺族であり大人が絵本を読むことの大切さについて講演活動をしている著名な作家を講師に招いて、講演会を開催した。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標	30年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	講演会、研修会回数	1	1	1	1	回
	2						
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標		講演会等参加者数	150	200	-	-	人
		目標達成率(実績/目標)		100.0	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	平成27年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
			当初予算額	0	176	0	0	405	581
			全体予算額	0	176	0	0	405	581
			決算額	0	113	0	0	412	525
			繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.1	0.0	686		1,211			

【事務事業名：自殺予防対策事業】  
(千円)

事業費推移	年度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度
	事業費	530	525	585	585	585
	うち一般財源	201	412	457	457	457
	人件費	688	686	686	686	686
	総事業費	1,218	1,211	1,271	1,271	1,271

## ◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		命の大切さを伝える取り組みとして、自殺予防の視点だけでなく、大人が絵本を読むことの効用や心の健康について啓発できたことはよかったと考える。
	効率性	A:効率的だった		他課と連携して事業を実施することにより啓発活動や集客がスムーズに実施できた。
②成果に対する評価	指標名	講演会等参加者数		講演会は1回であったが、自死遺族である著名な作家を講師として招き、命の大切さについて啓発することができた。参加者については目標人数を達成できた。  平成26年度に引き続き、人権推進課、子どもいきいき課、長寿介護課と合同で事業を実施したことは効果的であったと考える。講演回数は1回であったが、若者から高齢者まで幅広い年齢層の参加があった。引き続き幅広い年代の多くの市民に啓発を図りたい。
	目標	200	人	
	実績	200	人	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		

## ◎今後の方向性(ACTION)

課題	自殺対策基本法改正があり、自殺対策計画の策定が県及び市町村に義務づけられることとなったため、今後、国からのガイドラインや県の動向に注視していきながら対応をする。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	平成28年度	平成24年度から継続して取り組んでいる「絵本」をテーマとしたメンタルヘルス対策を継続して実施する。自殺予防だけの視点ではなく、人権、子育て・親育ての視点も併せて関係各課と連携した事業推進を実施していく。			
	平成29年度	平成28年度に継続して実施			